

The Alts Institute

# プライベート・クレジット 全解説



## 概要

プライベート・クレジットは、過去数十年にわたり著しい成長を遂げてきました。この傾向は加速しており、今後も衰える兆しは見られません。この資産クラスは、2009年にはわずか0.3兆ドル規模でしたが、現在では1.7兆ドルに達し、2028年までに2.88兆ドルに達すると予測されています<sup>1</sup>。

投資の場面でますます注目されるようになったプライベート・クレジットですが、しばしば誤解されることがあります。簡単に言えば、プライベート・クレジットとは、銀行以外の貸し手が借り手に対して直接行う融資を指します。事業の性質や規模が原因で、従来の銀行融資や公開市場からの資金調達が難しい借り手にとって、資金を調達する手段です。

本稿では、プライベート・クレジットという資産クラスを解説し、その特徴や様々な戦略について探っていきます。また、同資産クラスの成長の背景と継続的な拡大が見込まれる理由、そしてプライベート・クレジットへの配分がポートフォリオにもたらす潜在的なメリット・デメリットについて考察します。

## コンテンツ

- 1  
概要

---

- 2  
プライベート・クレジットとは何か

---

- 3  
その戦略

---

- 4  
プライベート・クレジット台頭の背景

---

- 6  
プライベート・クレジットを選ぶべき理由

---

- 11  
そのリスク

---

- 11  
結論



## プライベート・クレジットとは何か

プライベート・クレジットとは、従来の銀行を介すのではなく、借り手と民間の貸し手が直接契約を結ぶ形で行われる融資（バイラテラル・ローン）を指します（図表 1）。投資適格債やハイイールド債などのパブリック債券とは異なり、プライベート・クレジットは信用格付けを持ちません。

図表 1：プライベート・クレジットの定義



例示のみを目的としています。

プライベート・クレジットは、通常の銀行融資や公開市場から資金調達に難しい借り手のためのソリューションです。その一例が、ミドルマーケット（中規模）企業<sup>2</sup>です。銀行は一般的に、収益性の高い最大手企業のみを融資対象にしがちです。また、ニッチな業種の企業も、事業モデルや業界特性の適切な評価が困難であることや専門的なローン形成の知識を必要とするケースもあることから、銀行融資が困難となる場合があります。

### プライベート・クレジットの特徴

対象資産や業種は様々ですが、プライベート・クレジットは一般的に以下の特徴を共有しています。

**変動金利クーポン：**プライベート・ローンの金利は通常、SOFR（担保付翌日物調達金利）などの基準金利にスプレッドを上乗せして決定され、金利環境に応じて変動します。

**満期までの期間が短い：**ハイイールド債が7年以上であるのに対し、これらローンの満期は平均で5年から6年です。

**強固なコベナンツ（条項）の交渉が可能：**プライベート・ローンの契約には、借り手の追加借入れを制限するネガティブ・コベナンツやアフーマティブ・コベナンツ、一定の財務基準（レバレッジ比率や利払い能力など）の維持を義務付けるコベナンツが含まれるケースが多くなっています。これとは対照的に、シンジケート・ローンはコベナンツ・ライト（コベナンツが緩い）であるか、そもそもこのような防衛策が付いていません。

**流動性の低さ：**ハイイールド債やシンジケート・ローンのように頻繁に売買できるわけではなく、長期間にわたり資金が拘束されます。この流動性リスクに対する補償として、貸し手は通常、流動性プレミアムと呼ばれる潜在的な追加リターンを得ることができません。

**公開市場との相関が低い：**プライベート・クレジットは非上場であり、案件毎にカスタムの条件が設定されるため、公開債券市場や株式市場との相関が低く、ボラティリティが相対的に低い傾向にあります。

## プライベート・クレジット戦略

メザニン・ファイナンスからディストレスト・デットまで、プライベート・クレジットには様々な投資戦略があります（図表 2）。これらのうち、最も一般的な形態はダイレクト・レンディング（直接融資）です。

図表 2：代表的なプライベート・クレジット戦略

ダイレクト・レンディング	メザニン・ファイナンス	ABF (資産担保融資)	オポチュニスティック・レンディング	ディストレスト・デット
創業者所有または非公開株所有の企業に対して発行されるシニア債で、多くの場合、成長資金の提供を目的とする	シニア債と株式の中間に位置するジュニア債で、LBO、資本再編、企業買収の資金調達に使用されることが多い	企業の資産、現金、売掛金などを担保に提供される特化型融資	緊急な資金需要を持つ安定企業への融資（流動性確保や満期資金調達など）	債務超過や倒産などの経営危機に直面している企業へのディスカウント融資
<b>例</b>	<b>例</b>	<b>例</b>	<b>例</b>	<b>例</b>
個人向けパーソナルケア製品メーカーの買収に際して、PEファンドに柔軟な資金調達ソリューションを提供	事業拡大を目指す創業者所有のテクノロジー企業が、利払いと転換ワラントを組み合わせた資金調達を実施	在庫および製造設備を担保に組成された、歯科医療機器メーカーに対するカスタマイズ融資	市場サイクルの逆風が重石となるも、長期的には安定しているエネルギー企業に対する第一抵当権付きレスキュー（救済）ローン	バランスシートは思わしくないものの基本的には事業運営は健全な小売企業を貸し手が支援、成功裏に破産再建から立ち直った

プライベート・クレジット戦略へのアクセスという点では、かつては大手の機関投資家しか利用できませんでした。しかし、個人投資家需要が新たなピークやソリューションの開発に拍車をかけ、現在では個人投資家を含む幅広い投資家がプライベート・クレジットを利用しやすくなっています。





## プライベート・クレジット台頭の背景

プライベート・クレジット市場は過去数十年間で飛躍的に成長し、現在では 1.7 兆ドルの資産規模を誇る市場となっています。この成長は、世界金融危機（GFC）後に加速し、2009 年以降、プライベート・クレジット市場は 467%の成長を遂げました<sup>3</sup>。

プライベート・クレジット台頭のストーリーは 1980 年代に遡ります。当時、ハイイールド債市場が登場し、投資適格未満の信用格付けを持つ中小企業にとって、新たな資金調達的手段となりました。しかし、ハイイールド市場の銀行アクセスコストは高額で、広範な規制開示要件、発行規模の最低要件といった課題があり、すべての企業にとって最適な資金調達手段とは言えませんでした。

こうした非効率性が課題となる中、特に未公開の中小企業は、より柔軟な資金調達手段としてプライベート・クレジットに目を向けるようになり、結果としてプライベート・クレジット市場の成長が促されました。これは、1990 年代、米国地方銀行の統合を背景としてミドルマーケット（中規模）企業向け融資を手掛ける銀行が減少した時期と重なります。残った大手銀行は、ミドルマーケット企業よりも、手数料収入を伴うビジネスや大企業向け貸し出しに重点を置くようになったのです。

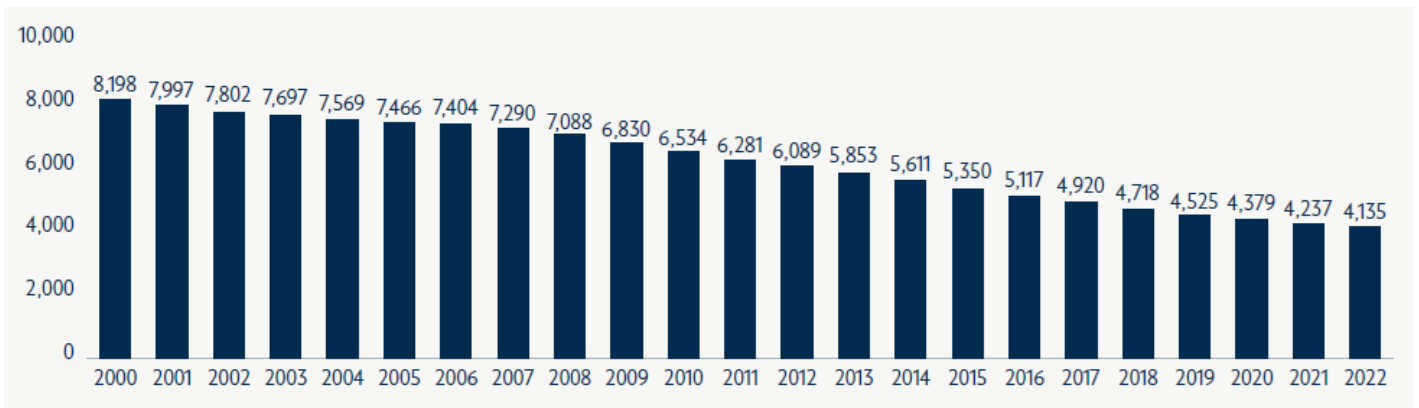
GFC 後、ドッド＝フランク・ウォール街改革・消費者保護法が成立し、銀行に対する規制が強化されました。これにより、銀行はより厳格な与信基準を求められ、追加資本の積み増しが義務付けられました。この結果、最大手への融資にフォーカスする銀行が増加しました。

この流れは、民間の貸し手にとって、信用リスクが高い企業や複雑なバランスシートを持つ企業を中心とした中堅企業向け融資ニーズを満たす絶好の機会となりました。その結果、銀行貸出は減少、ノンバンクによる融資が増加したのです。

数十年続く米国地方銀行統合の流れは現在も進行しており、プライベート・クレジットの投資機会はさらに拡大しています（図表 3）。さらに、2023 年初めに発生した地方銀行危機を受け、大手銀行の監督を強化する新たな規制改革案が登場しています。更なる規制強化に直面する中で、より多くの銀行がミドルマーケット企業向け融資から撤退し、民間レンダーからの資金調達を求める企業が増加する可能性があります。

図表 3：銀行統合を受けた融資環境の変化

米国商業銀行の総数

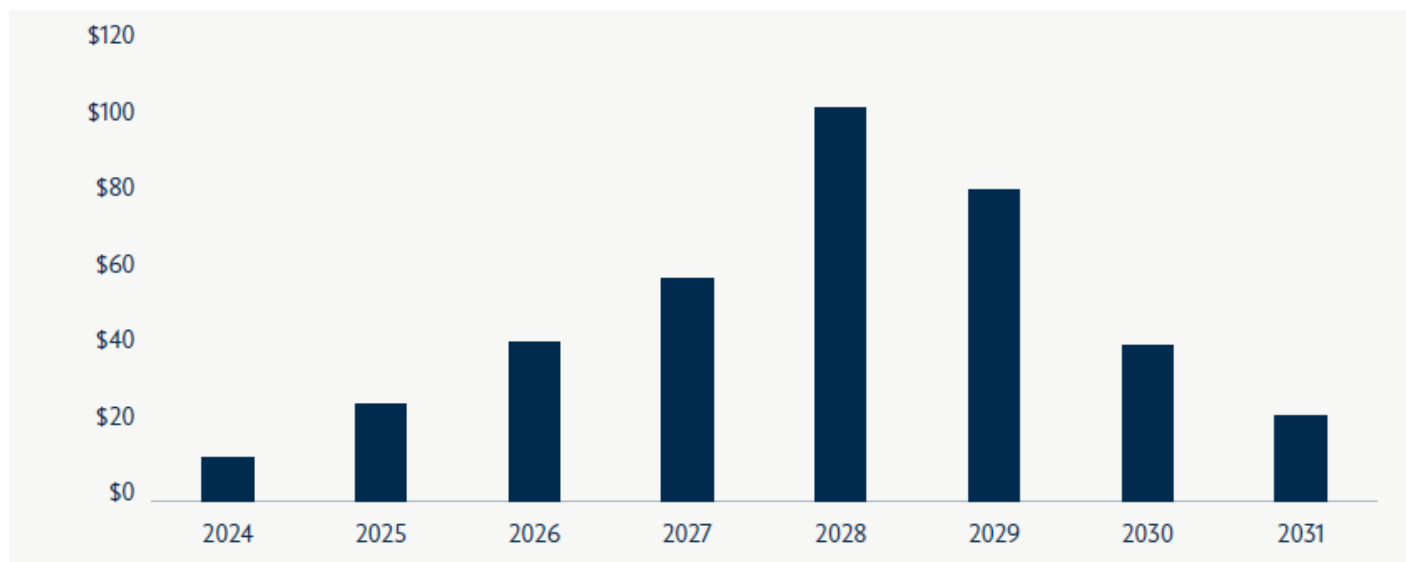


出所：FDIC、2023 年 12 月 31 日時点。



今後、プライベート・クレジット市場の成長を後押しするであろうもう一つの要因は、迫り来る債務満期の壁です。2028年単年だけで、ミドルマーケット企業向け融資 1,100 億ドル超が満期を迎える予定です。金利の高止まりが続く中、数多くの地域のミドルマーケット企業が多額の借換資金を必要とする可能性が高くなっています（図表 4）。

**図表 4：今後複数年で満期を迎える債務は膨大で、プライベート・クレジット需要を後押しする可能性がある**  
ミドルマーケット企業向けシニアデットの満期の壁



出所：KBRADLD。2024年3月31日現在。KBRADLDのプライベート・データ・ライブラリーは合計4,640億ドル。満期データはクリフウォーター創業者スティーブン・ネスビット著「プライベート・デット：利回り、安全性、オルタナティブ・レンディングの台頭（Private Debt: Yield, Safety and the Emergence of Alternative Lending）」第2版より引用。

また、過去最高水準まで積み上がったPEのドライパウダー（投資待機資金）も、プライベート・クレジット需要を押し上げる要因となりえます。足元におけるドライパウダーの水準からは投資資金が潤沢にあることが示されており、PE投資は通常、デットによる借入を伴います。実際のところ、レバレッジド・バイアウト（LBO）融資の需要は、プライベート・クレジットのドライパウダーを3兆ドル上回る水準にあり<sup>4</sup>、著しい資金ギャップが確認されています。プライベート・クレジットは、このギャップを埋める重要な役割を果たすと見られており、迅速かつ確実な取引実行、幅広い借り手に対する大規模なクレジット供給能力を武器に、同市場は今後も拡大を続けていく見通しです。

## プライベート・クレジットを選ぶべき理由

プライベート・クレジットは、安定した投資先であるだけでなく、複数の潜在的なメリットを提供します。

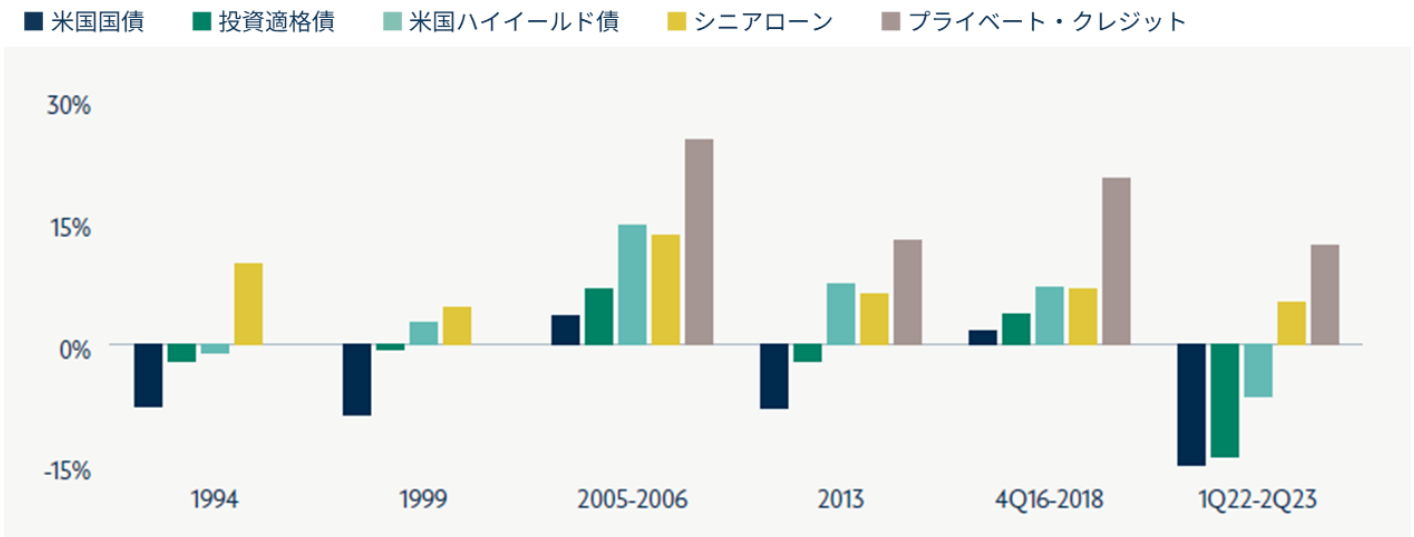
### 1. 金利上昇リスクの抑制

これまでプライベート・クレジットの成長ドライバーとなってきたのは金利環境であり、今後も新たな政策局面で成長をさらに後押しする可能性があります。GFC 後、長期にわたり継続した低金利環境下において従来の債券利回りは歴史最低水準に達し、イールドを追求する投資家がプライベート市場へと目を向けたことで、プライベート・クレジットから得られる高利回りの可能性が注目されるようになりました。

より高い利回り水準の長期化 (higher for longer) という足元の環境下においては、プライベート・クレジットが注目される理由もまた異なります。低金利環境では安定したイールド源泉となり得るプライベート・クレジットですが、金利上昇局面ではその影響を軽減するヘッジ手段としての役割も果たします。プライベート・ローンは、固定金利債よりもデュレーションが短く、金利変動の影響を受けにくいのが特徴です。金利が上昇すればプライベート・ローンの金利も上昇するため、その価値は低下しません。この潜在的なメリットは、過去 6 回の金利上昇局面におけるプライベート・クレジットのトータルリターンと固定金利債の比較からも明らかです (図表 5)。

図表 5：金利上昇局面においてプライベート・クレジットは歴史的に良好なパフォーマンスを記録

過去 6 回の金利サイクルにおける累積トータルリターン (%)



過去のパフォーマンスは将来の結果を示すものではありません。グラフは 2023 年 6 月までの過去 6 回の金利サイクルにおけるパフォーマンスを示しています。米国国債は FTSE10 年債、投資適格債は ICE BofA グローバル社債インデックス、米国ハイイールド債は ICE BofA インデックス、シニアローンはクレディ・スイス・レバレッジドローン・インデックス数、プライベート・クレジットはクリフウォーター・ダイレクト・レンディング・インデックス (2005 年指数開始以降のデータ) で表示されています。インデックスの完全な定義については開示情報をご参照ください。インデックスは運用されておらず、投資家が直接購入することはできません。インデックスのパフォーマンスは例示のみを目的としており、いかなる投資のパフォーマンスを予測または示唆するものではありません。

出所：ブルームバーグ、クレディ・スイス、クリフウォーター。2023 年 6 月 30 日現在。

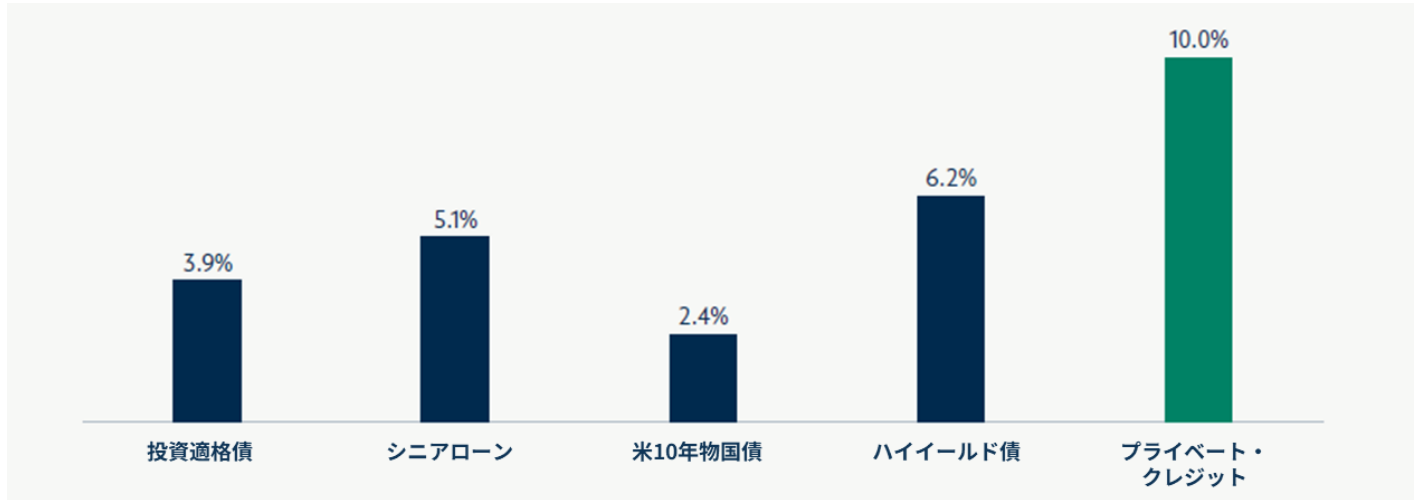
さらに、プライベート・クレジットは金利低下局面においてリスク低減の可能性を提供します。ローンには、借り手による一定期間内の繰上償還を制限する「コール・プロテクション」や、繰上償還に伴うペナルティが含まれる場合があります。また、変動金利ローンでは、一般的に基準金利の下限 (フロア) が設定され、金利低下局面におけるクッションの役割を果たします。

## 2. 魅力的な長期トータルリターン

ダイレクト・レンダーは、流動性の高い公開市場のデット投資を上回るローン形成手数料やクーポンの確保が可能です。そのため、プライベート・クレジットは歴史的にその他債券資産よりも優れたトータルリターンを創出してきました（図表 6）。

図表 6：プライベート・クレジットは長期にわたり従来の債券をアウトパフォーマンスしてきた

年率トータルリターン



過去のパフォーマンスは将来の結果を示すものではありません。投資適格債はブルームバーグ米国社債インデックス、シニアローンはクレディ・スイス・レバレッジドローン・インデックス、米10年物国債は FTSE10 年債 (OTR)、ハイイールド債は ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス、プライベート・クレジットはクリフウォーター・ダイレクト・レンディング・インデックスで表示されています。インデックスの完全な定義については開示情報をご参照ください。インデックスは運用されておらず、投資家が直接購入することはできません。インデックスのパフォーマンスは例示のみを目的としており、いかなる投資のパフォーマンスを予測または示唆するものではありません。

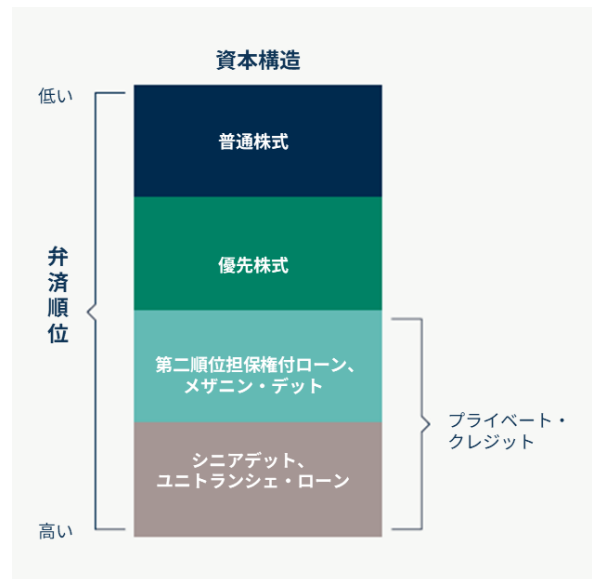
出所：ブルームバーグ、クリフウォーター。2010年1月1日から2023年12月31日まで。

## 3. ダウンサイドリスクの抑制

多くの場合、プライベート・ローンには担保が設定され、企業の債務構造において上位に位置づけられるため（図表 7）、デフォルト時には優先的に弁済されます。一般的に、現金、売掛金、設備などの資産に対する最初の請求権を持つのはシニアローンを保有する貸し手です。一方で、ジュニアローンの請求権はシニアローンに劣後しますが、それでも社債や株式よりは優先順位が高くなります。この様に、プライベート・ローンはデフォルト・リスクの管理に役立ちます。

そして、プライベート・ローンには通常、その他デット商品よりも厳格な貸し手保護条項が含まれます。資本構造上の位置が高いだけでなく、ローン契約には財務状況の維持を義務付けるコベナンツ（契約条項）が盛り込まれるのが一般的で、ローン期間中を通して定期的な審査が行われます。このようなレンダー保護のコベナンツによって、企業は一定の財務条件を満たす必要があるため、有利子負債倍率を一定水準未満に維持する助けとなります。

図表 7：プライベート・クレジットの弁済順位は株式よりも高い



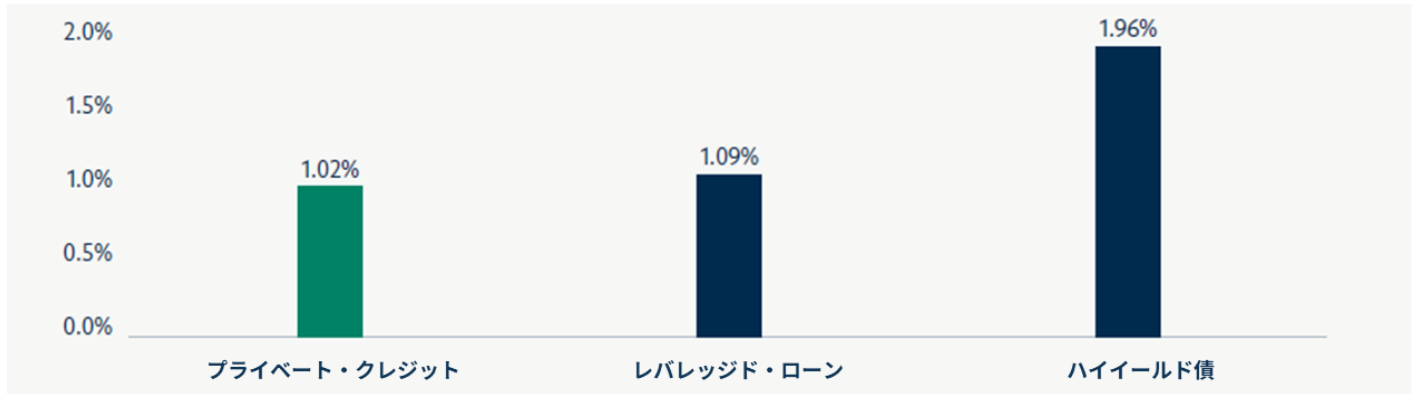
例示のみを目的としています。



異なるデット商品の回収率を比較すると、プライベート・クレジットが歴史的に下方リスクの軽減に貢献してきたことが分かります。過去 20 年間におけるデフォルト時の損失率を見ると、プライベート・クレジットはハイイールド債やシニアローンよりも損失が少なかったことが確認されています（図表 8）。

図表 8：プライベート・クレジットは下方リスク抑制に効果的／過去 20 年間の損失率は相対的に低い

年間平均損失率



過去のパフォーマンスは将来の結果を示すものではありません。損失の計算には利息収入と元本損益の両方が含まれます。プライベート・クレジットはクリフウォーター・ダイレクト・レンディング・インデックス（2004 年より開始）。レバレッジド・ローンは、2002 年から 2014 年まではクレディ・スイス・レバレッジド・ローン・インデックス、それ以降はデータ入手の都合上 JP モルガン。ハイイールド債券は、2002 年から 2022 年までは NYU ソロモンセンター／KBRA アルトマン、それ以降はデータの入手可能性により JP モルガン。

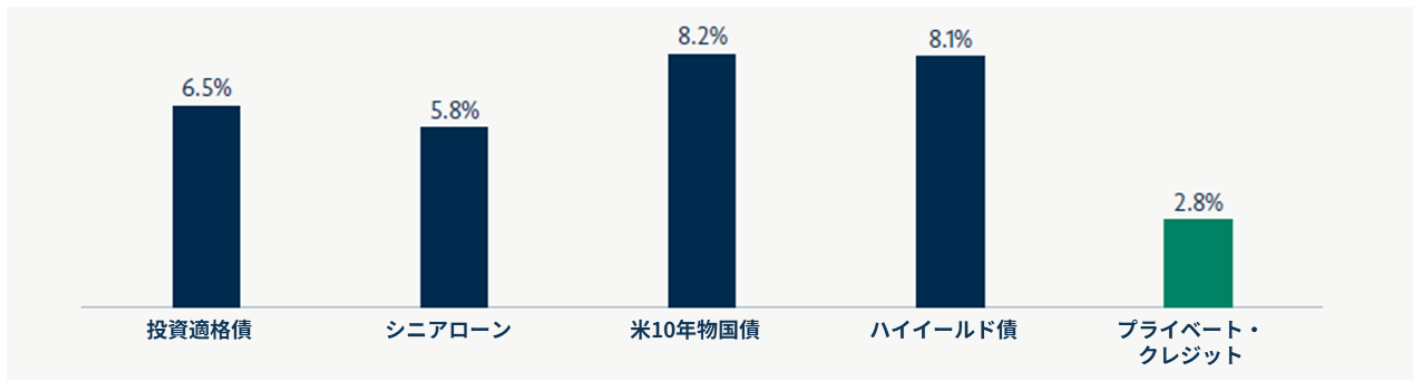
出所：JP モルガン・マーケット、モーニングスター、クリフウォーター。2023 年 12 月 31 日現在。

#### 4. ボラティリティの緩和

ハイイールド債やその他の高流動性デット商品は、プライベート・クレジット投資の時価評価よりもボラティリティが高くなる傾向にあります。過去 20 年間において、プライベート・クレジットのボラティリティはより流動性の高いデット商品のそれを大幅に下回っており、ポートフォリオ全体のリスク軽減に寄与する可能性があります（図表 9）。

図 9：プライベート・クレジットのボラティリティは相対的に低い

標準偏差



過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。投資適格債はブルームバーグ米国社債インデックス、シニアローンはクレディ・スイス・レバレッジド・ローン・インデックス、米国債は FTSE10 年物国債 (OTR)、ハイイールド債は ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス、プライベート・クレジットはクリフウォーター・ダイレクト・レンディング・インデックスで表示されています。標準偏差はボラティリティを表し、投資のリターンが平均リターンからどの程度変動するかを測定する指標です。指数は運用されておらず、投資家が直接投資することはできません。本データは説明のためのものであり、特定の投資のパフォーマンスを予測または示唆するものではありません。

出所：ブルームバーグ、クリフウォーター（2010 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日）。

## 5. より優れた分散効果

プライベート・ローンは、上場債券や株式などの伝統的な資産クラス、そして景気循環全般との相関が低いという特徴を有していることが過去データから分かっています(図表 10)。これは主に、プライベート融資ユニバースの幅が広く、公開市場の枠を超えた多様な投資機会へのアクセスが可能である点に起因しています。また、ミドルマーケット企業は業界内でも専門性が高い場合があり、プライベート・クレジット内のセクター集中リスクの軽減に寄与します。



図表 10：プライベート・クレジットはその他資産クラスとの相関が比較的低く、分散向上に寄与  
相関係数

	プライベート・クレジット	ハイイールド債	シニアローン	コーポレート・ストラクチャード・クレジット	新興国市場デット	米国株式
プライベート・クレジット	1.00					
ハイイールド債	0.49	1.00				
シニアローン	0.59	0.83	1.00			
コーポレート・ストラクチャード・クレジット	0.49	0.68	0.84	1.00		
新興国市場デット	0.46	0.89	0.81	0.74	1.00	
米国株式	0.39	0.79	0.60	0.45	0.62	1.00

過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。プライベート・クレジットはクリフウォーター・ダイレクトレンディング・インデックス、ハイイールド債は ICE BofA グローバル・ハイ・イールド・インデックス、シニアローンはクレディ・スイス・レバレッジド・ローン・インデックス、コーポレート・ストラクチャード・クレジットは JPMorgan CLO 2.0 BB ポスト・クライシス・インデックス、新興国市場債券は JP モルガン・コーポレート・ブロード CEMBI ダイバーシファイド・ハイ・イールド・インデックス、米国株式は S&P 500 で表示されています。指数は運用されておらず、投資家が直接投資することはできません。本データは説明のためのものであり、特定の投資のパフォーマンスを予測または示唆するものではありません。

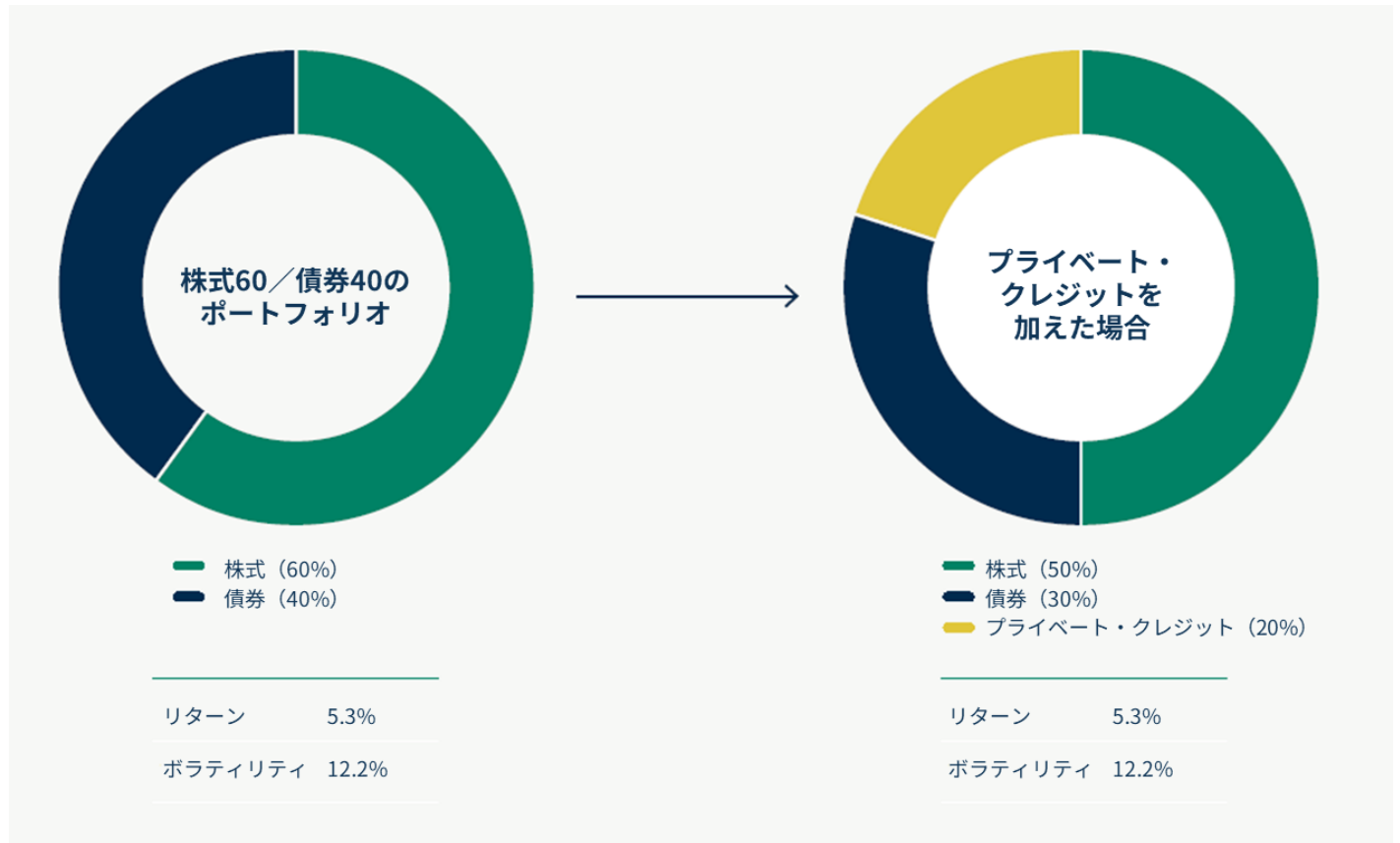
出所：JP モルガン、ICE BofA、クレディ・スイス、ブルームバーグ、モーニングスター、クリフウォーター（2013年1月1日～2023年12月31日）。



市場との直接的な相関がより低いことから、プライベート・クレジットは分散向上に寄与し、安定性と成長の両方を提供することで、従来ポートフォリオによりバランスの取れたリスクプロファイルを提供する可能性があります（図表 11）。

図表 11：プライベート・クレジットはポートフォリオの成果向上に寄与

トータルリターンとリスク



過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。分散投資は利益を保証するものではなく、損失を防ぐものでもありません。株式は MSCI ワールド・インデックス、債券はブルームバーグ・グローバル・アグリゲート・インデックス、プライベート・クレジットはクリフウォーター・ダイレクトレンディング・インデックスで表示されています。指数は運用されておらず、投資家が直接投資することはできません。本データは説明のためのものであり、特定の投資のパフォーマンスを予測または示唆するものではありません。

出所：モーニングスター、クリフウォーター（2008年1月1日～2023年12月31日）。



## プライベート・クレジットのリスク

貸し手と借り手のリレーションシップに基づく直接融資は、その内容が案件毎にカスタマイズされるため、専門知識を欠く投資家は様々なリスクに直面する可能性があります。十分な経験を持たない投資家が、プライベート・クレジット投資案件のソーシング、査定、ストラクチャリング、モニタリングを適切に行うのは容易なことではありません。さらに、プライベート・クレジット投資は、従来の株式や債券と比較して投資期間が長期であるため、流動性リスクを伴うケースが多いという特徴があります。

近年におけるプライベート・クレジット市場の急成長を受けて、規制当局の監視も強化されていることから、今後において規制・法務リスクが高まる可能性も考えられます。

## 結論

今日の投資環境は不確実性に満ちています。投資家にとって、金利、市場ボラティリティ、インフレ、地政学的リスクの先行きは不透明です。

このような環境下における融資には、アップサイドの可能性を維持しつつ下方リスクをどの様に管理するのかを慎重に検討する必要があります。従って、プライベート・クレジットの貸し手は、業界の専門知識、案件ソーシングの強固なネットワーク、ストラクチャリングの経験、そして資本規律という並々ならぬスキルセットを持つことがこれまで以上に重要となります。オークツリー・キャピタルの共同創業者であるハワード・マークスはかねてよりこう述べています：「私たちに予測は不可能だが、準備することはできる。」





## 脚注

1. 出所：プレキン・スペシャル・レポート：The Future of Alternatives in 2027（2022年10月発行）、プレキン・グローバル・レポート：Private Debt 2024（2023年12月発行）。このような事象や予測が起こるといった保証はなく、実際の結果は掲載されたものと大幅に異なる可能性があります。
2. 「ミドルマーケット企業」とは一般的に、利息、税金、減価償却費、償却費（EBITDA）前の利益が1,000万～5,000万ドルの米国企業を指します。
3. プレキン・スペシャル・レポート：The Future of Alternatives in 2027（2022年10月発行）。
4. 出所：プレキン、ブルームバーグ、ピッチブック LCD。2024年3月31日現在。

## 主な用語

**資本構造（キャピタルスタック）**：企業会社に投資された全ての資本の総称で、企業の財務構造の全体像を示すと同時に企業キャッシュフローに対する請求権の優先順位を示すものであり、リスクと潜在的なリターンを評価する上で不可欠。

- **普通株式**：資本構造の最上位、最もリスクの高い層と考えられている。リターンには上限がないため、最も高い収益性を得られる可能性がある。
- **優先株式**：普通株式とメザンデットの特徴を備えている。普通株式と同様、優先株式は、一定の投資の潜在的なアップサイド（普通株式より少ない）を備える。また、メザンデットと同様に、定期的な支払いを受ける権利を有する場合もある。
- **メザンデット**：シニアデットと同様、通常シニアデットより高い利率を定期的に受け取る（より高いリスクを考慮）。
- **シニアデット**：通常メザンデットより低い利率を定期的に受け取るが、これは一般的にこの債務がスタックの中で最大かつ最もリスクの低い部分であることを反映している。

## 利払い前・税引き前・減価償却前利益（EBITDA）

企業の中核的な収益性を示す指標。EBITDAは、純利益に利息、税金、減価償却費、償却費を加えたもの。資本資産や関連する償却費・減価償却費の水準が異なる企業を比較する際に有効。

## 非流動性プレミアム

容易に売買できない資産に投資するコストや不便さの代償として投資家が期待する追加リターン。非流動性プレミアムは、取引しにくい投資と同等の取引可能な投資の超過リターンを測定することによって計算される。

流動性とは、資産がいかに容易に現金化できるかということである。アパートのような非流動性資産には、すぐに入手できる市場価格がなく、売買時に高い取引コストがかかる。その結果、投資家はこうしたタイプの投資を保有することに対して、より高いリターンを要求する。

## レバレッジド・バイアウト（LBO）

高水準の負債を活用した投資先企業の買収。レバレッジ水準は90%に達することもあり、残りはエクイティで調達する。LBOでは、投資先企業の資産を負債の担保として利用することが多い。

## 重要な開示事項

ブルックフィールド・オークツリー・ウェルス・ソリューションズ・エルエルシーは、ブルックフィールドの完全子会社です。ブルックフィールド・オークツリー・ウェルス・ソリューションズ・エルエルシーは、米国証券取引委員会 (SEC) の登録ブローカー・ディーラーであり、米国金融業規制機構 (FINRA) と米国証券投資者保護公社 (SIPC) の会員です。

当資料に含まれる情報は、教育および情報提供のみを目的としており、いかなる証券もしくは関連する金融商品の募集または購入申し込みの勧誘ではなく、そのように解釈してはなりません。当資料内の説明は広範な市場、産業もしくはセクターのトレンドまたはその他の一般的な経済や市況を論じており、秘密情報として提供されています。

ブルックフィールド・コーポレーションとその関係会社（総称して「ブルックフィールド」）が設定するいかなる商品に適用される条件の概要の提供を目的としたものではありません。情報と見解は告知なしに変更となる場合があります。当資料で提供される情報の一部は、ブルックフィールドの内部調査に基づいて作成されており、一定の情報はブルックフィールドによる様々な仮定に基づいており、いずれの仮定も正確とは限りません。ブルックフィールドは、当資料に含まれる情報（第三者から提供される情報を含む）の正確性または完全性を必ずしも検証しておらず（そして検証する義務を負わず）、いかなる情報についても検証されたものとしてブルックフィールドに依拠することはできません。当資料で提供された情報は、当資料作成時点におけるブルックフィールドの視点および信念を反映しています。

当資料に表示された意見は、子会社および関連会社を含むブルックフィールドの現在の意見であり、予告なく変更となる場合があります。子会社および関連会社を含むブルックフィールドは、当該情報の更新または顧客への変更の通知を行う責任を負いません。当資料に提示されたいかなる見通し、予測またはポートフォリオ保有比率も当資料に示された日付時点のものであり、予告なしに変更となる場合があります。過去の実績は将来の成果を示唆するものではなく、投資の価値およびそれらの投資から生じるインカムは変動する可能性があります。

## プライベート・クレジットに関するリスク

すべての投資にはリスクが伴います。投資の価値は時間とともに変動し、投資家においては、利益を得るもしくは投資の一部または全てを損失する可能性があります。過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。

資産クラスとして、プライベート・クレジットは多様な債券で構成されています。それぞれのリスク／リターン特性は異なるものの、プライベート（非上場の）クレジット投資では、資金調達の実行が限定的な企業へのオポチュニスティックな投資を模索するため、一般的に、上場のものと比較してデフォルト・リスクが高くなります。

プライベート・クレジット投資では、通常、発行体が投資適格未満または無格付けであるため、より高いリスクの対価として利回りもより高くなります。

## 将来の見通しに関する記述

当資料には、米国 1934 年証券取引法第 21E 条およびカナダの証券法に定義された「将来の見通しに関する記述」を含む情報や、それらに基づく情報が含まれています。将来の見通しに関する記述は、事業戦略や投資戦略もしくは戦略遂行のための措置、競争力、目標、事業の拡大および成長、計画、見込み、将来の成功への言及など、将来の行動、事象または動向に関して、過去の事実の記述以外のすべての記述を含みます。これらの記述は、過去または現在の事実と厳格に関連しないという事実によって特定することができます。「予測」、「推定」、「期待」、「予想」、「想定」、「計画」、「考え」やその他の類似する用語は、これらの将来の見通しに関する記述を特定するために用いられます。将来の見通しに関する記述は、不正確な仮定や既知もしくは未知のリスクおよび不確実性によって影響を受ける可能性があります。そうした要素の多くは、将来の実際の結果や成果を決定する上で重要となります。そのため、いかなる将来の見通しに関する記述についても保証はありません。実際の結果や成果は大きく異なる場合があります。これらの不確実性を踏まえ、これらの将来の見通しに関する記述に不当に依拠するべきではありません。



## インデックス・プロバイダーに関する免責事項

当資料内で引用されたインデックスは運用されておらず、投資家がインデックスに直接投資することはできません。インデックスのパフォーマンスは例示のみを目的として記載されており、いかなる投資のパフォーマンスも予測または表示するものではありません。当該比較に関連して、記載されたインデックスとブルックフィールドの戦略、コンポジットまたはファンドへの投資との間には、ボラティリティや規制上および法律上の制約の違いなど、重大な要因が存在する可能性があります。ブルックフィールドは、第三者のインデックス・スポンサーからインデックスに関するすべてのデータを取得しており、当該データは正確と考えていますが、その正確性に関していかなる表明も行わないものではありません。インデックスは運用されておらず、投資家が直接購入することはできません。ブルックフィールドは、当資料で参照されたインデックスを所有しておらず、その構築または日々の管理に関与していません。当資料に記載されたインデックスの情報は、お客様への情報提供のみを目的としており、ブルックフィールドの運用商品が同様の結果を達成すると暗示または予測するものではありません。当該情報は予告なく変更されることがあります。当資料で参照されたインデックスは、いかなる報酬、費用、販売手数料または税金も控除していません。インデックスに直接投資することはできません。インデックス・スポンサーは、インデックスおよび関連データの「現状のまま」での使用を許可しており、これに関していかなる保証も行わず、インデックスまたはインデックスに含まれる、関連する、もしくはそこから派生するデータの適合性や品質、正確性、適時性、完全性を保証せず、それらの使用に関連して一切の責任を負いません。インデックス・スポンサーは、直接的、間接的、特別、偶発的、懲罰的、結果的またはその他の損害（利益の損失を含む）について一切の責任を負いません。インデックス・スポンサーは、ブルックフィールドまたはそのいかなる運用商品やサービスの後援、是認または推奨も行わないものではありません。別段の注記がない限り、すべてのインデックスはトータル・リターン・インデックスです。

## インデックスの定義

ブルームバーグ・グローバル総合インデックスは、世界で取引される投資適格債券で構成される時価総額加重インデックスです。同指数には、市場の債券ユニバースを疑似する政府証券、モーゲージ担保証券、資産担保証券、社債が含まれます。同インデックスを構成する債券の満期は1年以上です。

クリフウォーター・ダイレクト・レンディング・インデックス (CDLI) は、特定の適格性要件を条件として、上場と未上場両方を含む事業開発会社 (BDC) の原資産の資産加重パフォーマンスで表される、米国ミドルマーケット企業貸付のレバレッジなし報酬控除前パフォーマンスを測定する指数です。

クレディ・スイス・レバレッジド・ローン・インデックスは、シニア変動金利バンクローンのパフォーマンスを測定する指数で、米ドル建てレバレッジド・ローン市場の投資可能ユニバースを反映するように設計されています。同インデックスは、投資可能な米ドル建てレバレッジド・ローン市場を対象とします。格付けが「5B」またはそれ以下の銘柄で構成されており、従って、同インデックスに含まれる最高格付けの銘柄は、Moody's/S&P による格付けが Baa1/BB+または Ba1/BBB+です。すべてのローンは、満期まで1年以上のタームローンで、先進国に国籍がある借り手に供与されています。

JP モルガン CLO 2.0 BBB ポスト・クライシス・インデックスは、2010 年以降に発行された案件を含む危機後に設定された変動金利型 CLO BBB 証券を測定する指数で、時価加重法を使用しています。

JP モルガン・コーポレート・エマージング・マーケット・ボンド・ハイイールド・インデックス (CEMBI HY) は、新興市場の企業が発行する米ドル建て社債（ハイイールド債のみ）を測定する、流動性のあるグローバルな新興市場社債指数です。

ICE BofA グローバル・ハイ・イールド・インデックスは、主要国内市場またはユーロ債市場で発行された米ドル、カナダドル、英ポンド、ユーロ建てで、米ドル、カナダドル、英ポンド、ユーロ建ての投資適格 (IG) 未満の社債のパフォーマンスを測定する指数です。

モーニングスター・グローバル・レバレッジド・ローン・インデックスは、グローバルなレバレッジド・ローン市場のパフォーマンスを測定するために設計されています。モーニングスター LSTA 米国レバレッジド・ローン・インデックスを 75%、モーニングスター欧州レバレッジド・ローン・インデックスを 25% の比率で組み合わせた固定加重のコンポジット指数です。

S&P500 インデックスは、幅広く保有された大型株米国企業を代表する 500 社の株価指数です。

投資商品：FDIC 保険対象外 | 価値毀損の可能性あり | 銀行保証なし

@ 2024 Brookfield Corporation

ID 1643